

保 健 体 育

1 学習評価の改善・充実

(1) 学習評価の改善の基本的な考え方

新学習指導要領においては、各教科等の目標及び内容を資質・能力の三つの柱で再整理し、指導と評価の一体化を推進する観点から、観点別学習状況の評価の観点についても、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理して示された。

また、観点別学習状況の評価と評定の双方の特長を踏まえつつ、その後の指導の改善等を図ることが重要であることを明確にすることや、観点別学習状況の評価と評定の両方について、学習指導要領に示す各教科・科目の目標に基づき学校が地域や生徒の実態に即して定めた当該教科・科目の目標や内容に照らし、その実現状況を評価する、目標に準拠した評価として実施することを明確にすることなどの改善が図られた。

(2) 評価の観点及びその趣旨

観 点	趣 旨
知識・技能	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

(3) 評価規準の設定

「内容のまとまりごとの評価規準」の作成に当たっては、次のように進めることが考えられる。

ア 体育

(ア) 「知識・技能」のポイント

- ・学習指導要領に示す「2 内容」の「B 器械運動」から「G ダンス」の(1)の文章中、「知識」について該当する箇所は「技の名称や行い方、(略)について理解する」の部分であり、「技能」について該当する箇所は、領域の内容の技能の指導内容を示した「ア、イ、ウ、エ」の部分である。
- ・「知識」については、同(1)で育成を目指す資質・能力に該当する指導内容について、その文末を「～について理解している」として、評価規準を作成する。
- ・「技能」については、同(1)で育成を目指す資質・能力に該当する領域の内容の技能の指導内容について、その文末を「～できる」として、評価規準を作成する。

(イ) 「思考・判断・表現」のポイント

- ・「思考・判断・表現」については、学習指導要領「2 内容」の(2)で育成を目指す資質・能力に該当する指導内容について、その文末を「～課題を発見し、～を工夫するとともに、～を他者に伝えている」として、評価規準を作成する。

(ウ) 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、学習指導要領「2 内容」の(3)で育成を目指す資質・能力に該当する指導内容について、その文末を「～している」として、評価規準を作成する。

イ 保健

(ア) 「知識・技能」のポイント

- ・「知識」については、学習指導要領に示す「2 内容」の「～について理解を深める」と示している部分が該当し、その文末を「～について理解している」として評価規準を作成する。
- ・「技能」について、その内容が示されているのは「安全な社会生活」のみである。学習指導要領に示す「2 内容」の(2)ア(イ)の「応急手当を適切に行うこと」の部分が該当し、それを生徒が「～身に付けている」かどうかの学習状況として表すこととする。評価規準はその文末を「～についての技能を身に付けている」として作成する。

(イ) 「思考・判断・表現」のポイント

- ・「思考・判断・表現」については、学習指導要領に示す「2 内容」の「～思考し判断するとともに、それらを表現すること」や「～考え、それらを表現すること」と示している部分が該当し、評価規準は「～している」として作成する。

(ウ) 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、学習指導要領に示す「2 内容」に「学びに向かう力、人間性等」に関わる事項が示されていないことから、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する場合、「各教科等の評価の観点及びその趣旨」における「主体的に学習に取り組む態度」や「保健」の目標を基に、作成する。
- ・「評価の観点及びその趣旨」の冒頭に示された「～について」の部分は、その「内容のまとまり」で対象とするものとし、これらの学習に主体的に取り組んでいるかどうかの学習状況として表すこととする。評価規準は、「各教科等の評価の観点及びその趣旨」や「保健」の目標を踏まえて、「～についての学習に主体的に取り組もうとしている」として作成する。

なお、「単元の評価規準」については、各学校において、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえ作成する。その際、体育においては学習指導要領解説の例示の文末を変換したり、保健においては同解説の表記を用いたりするなどして作成する方法が考えられる。

(4) 観点別学習状況の評価の実施上の留意点

学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学び

を振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには、評価のみを単独で捉えるのではなく、「何を教えるのか」、「どのように教えるのか」といった、指導する内容や指導方法等と関連付けて評価の進め方を検討することが大切である。

また、学習評価が、「生徒の学習改善につながるもの」として活用されることが極めて重要であり、観点別学習状況の評価の役割が一層重視されている。そのため、育成を目指す資質・能力ごとに、評価情報を、どのような方法で、どのタイミングで生徒にフィードバックしていくことが効果的であるかを考慮して、指導と評価の計画をデザインすることが重要である。

なお、指導と評価を一体的に進めるに当たっては、指導を充実させた上で評価を行うことが重要であることから、学習指導要領解説に示された指導内容ごとの留意事項等について十分に配慮した授業づくりが求められる。

ア 体育

(ア) 知識・技能

知識	<ul style="list-style-type: none"> ・体の動かし方や用具の操作方法などの具体的な知識と、運動の実践や生涯スポーツにつながる概念や法則などの汎用的な知識で示している。具体的な知識と汎用的な知識との往還や、運動に関する領域と体育理論等の関連を図るなどにより、各領域の特性や魅力、運動やスポーツの価値等を理解することにつながるができるようにする。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・「内容のまとめり」ごとに、例示等を参考にして、運動種目等の固有の技能や動き等を身に付けさせることが具体的なねらいとなる。その際、各領域及び運動種目等における技能や攻防の様相、動きの様相との関連を図り、各領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。

(イ) 思考・判断・表現

<ul style="list-style-type: none"> ・各領域に共通して、生涯にわたって運動を豊かに継続することを見据え、「する、みる、支える、知る」の視点から自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的に解決したり、新たな課題の発見につなげたりすることができるようにすることを示している。その際、知識を活用したり、応用したりして、思考し判断したことを、根拠を示したり他者に配慮したりしながら、言葉や動作などで即座に表したり、図や文章及び映像等を用いて筋道を立てて伝えたりすることができるようにする。 ・科目体育で示す「表現力」とは、運動の技能に関わる身体表現や表現運動系及びダンス領域における表現とは異なり、思考し判断したことを他者に言葉や文章及び動作などで表現することであることに留意する。 ・多くの運動の中から、自分に適した領域を選択し、卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることができるようにするため、各領域で学習した内容を他の運動にも適用することが求められている点に留意する。

(ウ) 主体的に学習に取り組む態度

<ul style="list-style-type: none"> ・各領域で取り上げることが効果的かつ具体的な指導事項として、公正（伝統的な行動の仕方）、協力、責任、参画、共生が、重点化して示されていることに留意する。 ・生徒自身の自主性、主体性を促し、生涯にわたる豊かなスポーツライフを継続していく資質・能力の育成を図るため、例えば、協力の場面や行動の仕方の例などの具体的な知識と、なぜ協力するのかといった協力することの意義などの汎用的な知識を関連させて指導することが求められている点に留意する。

(エ) その他

<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」の観点の「技能」及び「主体的に学習に取り組む態度」の二つの観点における評価は、技能の獲得、向上や態度の育成等に一定の学習期間が必要となること、主に観察評価によって評価を行うことから、指導後に一定の学習期間及び評価期間を設ける工夫を行うことなどが考えられる。

・「知識・技能」の観点の「知識」及び「思考・判断・表現」の二つの観点における評価は、主に学習ノート等に記述された内容から評価の材料を得ようとする場合、指導から期間を置かず評価を行い、さらに、生徒の発言等の観察評価によって得られた評価の材料を加味して評価の妥当性、信頼性等を高める工夫を行うことなどが考えられる。

イ 保健

(ア) 知識・技能

・個別の知識及び技能の習得状況について評価する。なお、評価の工夫として、実際に知識や技能を用いる場面を設けることなどが考えられる。

(イ) 思考・判断・表現

・課題を発見し、よりよい解決に向けて思考したり、様々な解決方法の中から適切な方法を選択するなどの判断をしたりするとともに、それらを他者に表現する活動を設定し、単元を通して「①課題の発見、②解決、③表現」の3段階が評価できるように工夫することが大切である。

(ウ) 主体的に学習に取り組む態度

・学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、粘り強く取り組もうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。評価に当たっては、最終的に到達する生徒の姿をイメージし単元全体を通して生徒の学習改善や教師の指導改善につなげることも重要である。

(エ) その他

・観点別の学習状況の評価については、「おおむね満足できる」状況、「十分満足できる」状況、「努力を要する」状況と判断した生徒の具体的な状況の例などを示している。「十分満足できる」状況という評価になるのは、生徒が実現している学習の状況が質的な高まりや深まりをもっていると判断されるときである。

・観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することが重要であるため、観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選について、「指導と評価の計画」の中で具体的に示すなどの工夫が考えられる。

・生徒の反応やノート、ワークシート、作品等の評価資料をどのように活用したかなど、評価方法の多様な工夫を図ることなどが考えられる。

(5) 観点別学習状況の総括の進め方

ア 観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括を行うに当たっての留意事項

- ・指導と評価の一体化の考え方を踏まえると、育成を目指す資質・能力に対応した指導内容をバランスよく指導し評価することが求められる。
- ・観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括を行うに当たっては、指導事項に対応した評価規準数を考慮するのか、観点別学習状況の評価を評定へ総括する際に観点ごとの比率を設定するのか等も含め、観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括についての考え方や方法等を各学校において十分検討しておく必要がある。
- ・シラバスやオリエンテーション等の機会を通して、事前に生徒及び保護者等に対して十分な説明をしておくことが重要である。

イ 観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括の例

観点別学習状況の評価に係る記録の総括の時期としては、単元（題材）末、学期末、学年末等の節目が考えられる。単元（題材）における総括は、記録に残した評価が中心となるが、学習の過程における生徒の優れた状況を捉えるなどして資料に加えることは大切である。例として、(ア)については観点ごとの学習の実施状況を最もよく表現しているとする考え方に立つ総括の方法として評価結果のA、B、C

の数を基に総括する方法、(イ)についてはA、B、Cを数値化することで合計したり平均したりする総括の方法として評価結果のA、B、Cを数値に置き換えて総括する方法、(ウ)については、学習の深まりや高まりの変化を重視する方法として評価結果の後半を重視して総括する方法を示す。

(ア) 評価結果のA、B、Cの数を基に総括

	①	②	③	④	単元の評価
知識・技能	A	B	A	A	A
思考・判断・表現	C	B	A	B	B
主体的に学習に取り組む態度	B	B	A	B	B

(イ) 評価結果のA、B、Cを数値に置き換えて総括

	①	②	③	④	単元の評価
知識・技能	A (3)	B (2)	A (3)	A (3)	A (2.8)
思考・判断・表現	C (1)	B (2)	A (3)	B (2)	B (2.0)
主体的に学習に取り組む態度	B (2)	A (3)	B (2)	B (2)	B (2.3)

※ イについて、A=3点、B=2点、C=1点として、平均値を求めている。

【A】(平均値) > 2.5 【B】1.5 ≤ (平均値) ≤ 2.5 【C】(平均値) < 1.5

(ウ) 評価結果の後半を重視して総括

	①	②	③	④	単元の評価
知識・技能	C	B	B	A	A
思考力・判断力・表現力	C	C	B	B	B
主体的に学習に取り組む態度	B	B	A	A	A

※ 評価の総括については、各学校において定めた適切な方法によるものとする。

また、上記以外にも、特定の時点に重きを置いて評価を行うなど、様々な総括方法が考えられる。

評定は、観点別学習状況の評価を総括した数値を示すものである。評価に係る記録の総括と同様、各観点の評価結果をA、B、Cの組合せ、又は、A、B、Cを数値で表したものに基づいて総括し、その結果を5段階で表す。A、B、Cの組合せから評定に総括する場合、「B B B」であれば3を基本としつつ、「A A A」であれば5又は4、「C C C」であれば2又は1とするのが適当であると考えられる。それ以外の場合は、各観点のA、B、Cの数の組合せから適切に評定することができるようあらかじめ各学校において決めておく必要がある。

(ア) 評価結果のA、B、Cの数を基に総括

	総括			評定
	知	思	態	
生徒a	A	A	A	5 または 4
生徒b	A	A	B	4
生徒c	A	B	B	4 または 3
生徒d	B	B	B	3
生徒e	C	C	B	2

(イ) 評価結果のA、B、Cを数値に置き換えて総括

	総括			評定
	知	思	態	
生徒a	A (5)	A (5)	A (5)	5
生徒b	A (5)	A (5)	B (3)	4 (4.3)
生徒c	A (5)	B (3)	B (3)	4 (3.7)
生徒d	B (3)	B (3)	B (3)	3
生徒e	C (1)	C (1)	B (3)	2 (1.7)

※ (イ) については、A=5点、B=3点、C=1点として、平均値を求めている。

【5】(平均値) ≥ 4.5 【4】3.5 ≤ (平均値) < 4.5 【3】2.5 ≤ (平均値) < 3.5

【2】1.5 ≤ (平均値) < 2.5 【1】(平均値) < 1.5

評定は、生徒の学習状況について5段階に分類したものとして捉えるのではない。常に生徒の具体的な学習状況を適切に捉えた上で、評定への総括を検討するとともに、教師間で共通理解を図り、生徒及び保護者には十分説明し理解を得ることが大切である。

2 新学習指導要領における指導と評価の計画例

(1) 「体育：球技（ゴール型：バスケットボール）」〔入学年次の次の年次以降〕の計画例

「体育」の指導に当たっては、体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することが求められている。ここでは、入学年次の次の年次以降における球技（ゴール型：バスケットボール）の指導と評価の計画例を示す。

ア 単元の目標

(ア) 次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。

・ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって、空間への侵入などから攻防をすることができるようにする。

(イ) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。

(ウ) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>①球技では、各型の各種目の局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれは、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>②課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲームなどを通して学習成果の確認、新たな目標の設定という過程があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>③競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>○技能</p> <p>①防御をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶことができる。また、空いた空間に向かってボールをコントロールして運ぶことができる。</p> <p>②味方が作り出した空間にパスを送ることができる。</p> <p>③自陣から相手陣地の侵入しやすい場所に移ることができる。また、シュートをしたり、パスを受けたりするために味方が作り出した空間に移ることができる。</p> <p>④チームの作戦に応じた守備位置に移動し、相手のボールを奪うための動きをすることができる。また、味方が抜かれた際に、攻撃者を止めるためのカバーの動きをすることができる。</p>	<p>①球技の学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②作戦などを話し合う場面、合意形成に貢献しようとしている。</p> <p>③危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。</p>

ウ 指導と評価の計画（12時間）

本単元「球技（ゴール型：バスケットボール）」について、次のとおり計画した。

学 習 の 流 れ	0	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動 等																									
	5	テ オ リ シ ョ ン	ボールハンドリング反復練習						チームの課題に応じた練習																		
	10		チームの本時の課題と解決方法について共有																								
	15	チ ー ム 決 め	オ フ エ ン ス 戦 術 練 習			デ ィ フ エ ン ス 戦 術 練 習		条 件 付 き 戦 術 練 習		簡 易 ゲ ー ム 振 り 返 り		簡 易 ゲ ー ム 振 り 返 り		大 会 形 式 ゲ ー ム													
	20															リ ン グ ル 復 習											
	30																										
	35												大 会 形 式 ゲ ー ム ま と め														
	40																										
	45																										
	50	整理運動・本時の学習の振り返り・次時の確認 等																									
	評 価 機 会	知識		①					②				③	総 括 的 な 評 価													
		技能			①	②			④			③															
		思・判・表						③		②			①														
態度				①						②		③															

各授業時間のねらい・学習活動及び重点、評価方法等については、次のとおり計画した。

時間	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
5	<ul style="list-style-type: none"> ・守備において、空間を作り出す攻撃をさせないように、突破してきた攻撃者をカバーして守ったり、相手や味方の位置を確認して、ポジションを修正して守ったりする動きを実践する。 ・チームや仲間の課題解決の方法について、合意を形成するために言葉や文章、図などで伝える。 		③		グループレポート
8	<ul style="list-style-type: none"> ・攻防におけるチームや自己の課題について把握し、どのように解決するかを協議し、実践する。 			②	行動観察 個人レポート
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームのルール、試合方式、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方等について実践する。 	③			行動観察 大会運営記録

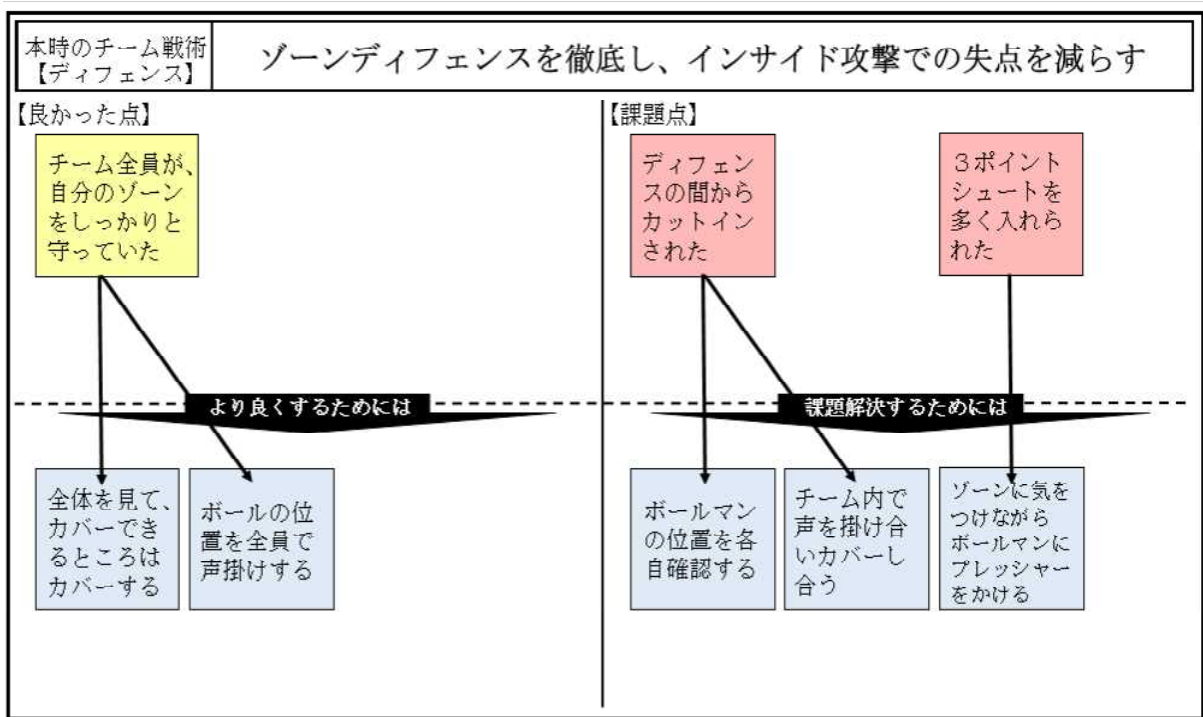
エ 評価問題等

(ア) 知識・技能（11時間目）

大会形式の競技会において、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方等について、学習したことを基に実践することができる。（※試合順や審判及びテーブルオフィシャルズの割り振り、試合結果等については、ICT端末を活用して管理する。）

(イ) 思考・判断・表現（5時間目）

ディフェンス戦術について、ゲーム終了後に、ICT端末を活用した振り返りを行い、チームでの話し合いの場面で、チームの良い点や課題等を発見し、合意を形成するための調整の仕方を工夫し、他者に伝えている。



(ウ) 主体的に学習に取り組む態度（8時間目）

I C T端末を活用した攻撃及び防御についてのグループ協議において、合意形成に貢献しようとしている。

※他に考えられる I C T端末の活用例

学習支援ソフトを活用し、レポート等課題の提出や管理を行ったり、大会形式のゲーム運営の際に進捗状況や試合結果等を共有することなどが考えられる。

(2) 「保健：精神疾患の予防と回復」〔入学年次〕の計画例

「保健」の指導に当たっては、保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成することが求められている。ここでは、入学年次における「現代社会と健康」の「(ウ)精神疾患の予防と回復」の指導と評価の計画例を示す。

ア 単元の目標

(ア) 精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であり、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることについて、理解することができるようにする。

(イ) 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。

(ウ) 精神疾患の予防と回復について、自他の健康の保持増進や、それを支える環境づくりについての学習に主体的に取り組むことができるようにする。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物	①現代社会と健康につ	①精神疾患の予

<p>的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>② うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害などを適宜取り上げ、誰もが罹患しうること、若年で発症する疾患が多いこと、適切な対処により回復し生活の質の向上が可能であることなどについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>③ 精神疾患の予防と回復には、身体の健康と同じく、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動などのリラクセーションの方法でストレスを緩和することなどが重要であること、また、心身の不調時には、不安、抑うつ、焦燥、不眠などの精神活動の変化が、通常時より強く、持続的に生じること、心身の不調の早期発見と治療や支援の早期の開始によって回復可能性が高まることや、人々が精神疾患について正しく理解するとともに、専門家への相談や早期の治療などを受けやすい社会環境を整えることが重要であること、偏見や差別の対象ではないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>いて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p> <p>② 精神疾患の予防と回復について、習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。</p>	<p>防と回復について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとしている。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------

ウ 指導と評価の計画（4時間）

各授業時間のねらい・学習活動及び重点、評価方法等について、次のとおり計画した。

	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 精神疾患の特徴①	<p>・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、精神活動が不全になった状態であることを理解し、身近な疾病であることに気付く。</p> <p>1 中学校までの既習事項（「欲求やストレスへの対処と心の健康」）を振り返り、「過度なストレスが心身の健康や生命に深刻な影響を与える場合」について考える。</p> <p>2 精神疾患の状態や特徴についてワークシートにまとめる。</p> <p>3 精神疾患が身近な疾病であることに気付く。</p>	①			観察 ワークシート
2 精神疾患の特徴②	<p>・うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害などを適宜取り上げ、誰もが罹患しうること、若年で発症する疾患が多いこと、適切な対処により回復し生活の質の向上が可能であることについて、理解できるようにする。</p> <p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>2 動画を活用し、うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害の症状について理解したことをワークシートにまとめる。</p> <p>3 各症状の特徴から共通する傾向や、適切な対処等についてワークシートに書き出し、グループで考え発表する。</p> <p>4 アルコールや薬物などの物質への依存症に加えて、ギャンブル等への過剰な参加は習慣化により嗜癖行動になる危険性があることについて知る。</p>	②	①		観察 ワークシート
3 精神疾患への対処①	<p>・精神疾患の予防と回復には、身体の健康と同じく、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動などのリラクセーションの方法でストレスを緩和することなどが重要であること、また、心身の不調時には、不安、抑うつ、焦燥、不眠などの精神活動の変化が、通常時より強く、持続的に生じること、心身の不調の早期発見と治療や支援の早期の開始によって回復可能性が高まること、専門家への相談や早期の治療などを受けやすい社会環境を整えることが重要であること、偏見や差別の対象ではないことについて、理解できるようにする。</p> <p>1 前時の学習を振り返り、精神疾患の特徴について確認をし、</p>				

	<p>早期発見・早期治療の重要性について知る。</p> <p>2 精神疾患の予防方法や回復方法を各自でワークシートにまとめ、その内容を基にグループで意見交換をする。</p> <p>3 精神疾患に関する偏見や差別が社会に潜在していることを知り、偏見や差別の対象ではないことを理解する。</p> <p>4 どのような立場の人が精神疾患の予防と回復に関わっているかを考える。</p>	③		観察 ワークシート
4 精神疾患への対処②	<p>・習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策について整理する。</p> <p>1 前時までの学習内容を確認する。</p> <p>2 精神疾患の予防と回復について、グループでの話し合いを通して様々な視点から個人の取組や社会的な対策について整理し、ワークシートにまとめる。</p> <p>3 単元全体を通して学んだことをこれからの生活にどのように生かしていくのかをワークシートに記入する。</p>		②	観察 ワークシート
			①	

エ 評価問題等

学習のねらいに応じた「知識」や「思考・判断・表現」などの生徒の学習状況を的確に把握するために、ワークシートを工夫したり、ICTを効果的に活用したりすることが考えられる。

【作成例】 《表面》

《はじめに》・・・思い返してみよう
 ○過度なストレスにさらされ続けると自分の心や体はどのような状態になるだろう？
 平常時とストレス下の心と体の状態を自身の経験も振り返りながら考えてみよう

	平常時	ストレス下
体の状態		
心の状態		

●精神疾患の要因を分類ごとにまとめよう

() 的要因	() 的要因
・	・
・	・
() 的要因	() 的要因
・	・
・	・

●「精神疾患」とはどういったものなのか説明しよう

【作成例】 《裏面》

●主な精神疾患についてまとめよう

	発病の要因	主な症状・特徴
うつ病		
統合失調症		
不安症		
摂食障害		

☆☆グループで話し合ってみよう☆☆
 ○精神疾患に共通する傾向は…
 { }
 ○効果的な対処方法は…
 { }

●精神保健の今日的課題について考えよう

私の考える今日的課題は、

☆その解決策は…

ICT端末を活用したワークシートを用いて、「知識」について、本時の学習で理解したことを言ったり書いたりしている内容を捉えたり、「思考・判断・表現」について、グループで筋道を立てて伝え合っている内容や、課題の解決方法等を捉えることが考えられる。

※他に考えられるICT端末の活用例

学習支援ソフトを活用し、グループ協議の際の個々の意見等を視覚化したり、ワークシート等課題の提出や管理を行うなどが考えられる。